

報告概要

岩手県立博物館第 69 回企画展「魅力的な八本脚の生きもの・クモ」 (交付番号 18001)

目的

クモは誰もが知る身近な存在だが、その生態についてはあまり知られていない生き物である。本企画展では、昆虫と比較しながら、形態の違いや狩りの方法、毒、生活史を解説するほか、岩手県内で見られる身近なクモを中心に、様々な環境ごとのクモ相の違いや多様性を写真や標本により紹介する。また、人とクモとの文化的な関わりについて、クモの意匠が見られる文化財を展示するほか、県内や全国各地に残る言い伝えや民話、生活の中での人とクモとの関係を紹介する。これらの展示をとおり、クモの魅力を知る人を増やすとともに、苦手だと思っていた対象でも「わかれば好きになる」を体験できる展示を目指す。

展覧会の概要及び会場の様子

展示期間 平成 30 年 6 月 2 日～平成 30 年 8 月 19 日

展示期間中の来館者数 13,509 名(内、小中学生 5,033 名)

展示内容

展示は以下の 8 章構成とした。

序章 クモにまつわる言い伝え

一般に、朝のクモは縁起が良く夜のクモは不吉とする言い伝えがあるが、夜のクモも吉兆とするものが岩手県や東北各地のほか、九州などでも伝えられていることを紹介した。

第 1 章 蜘蛛の文化史

クモの意匠が見られる文化財やクモを使った遊び、民話等を展示し、日本では古くからクモを身近な隣人として親しんできた一方で、クモを妖怪として気味の悪いものとする考えが広まっていったことを紹介した。

第 2 章 クモはどんな生きものか

クモの形態や感覚器・消化管・呼吸器・循環器などの解剖的な特徴のほか、系統関係を解説した。クモ（ハエトリグモ）の視野を体感できる、大型のクモ模型を展示した。

第 3 章 クモの狩り

網を使うクモの狩りと、網の多様性、クモの毒、徘徊性のクモの狩りを紹介したほか、クモの天敵を解説した。

第 4 章 クモの一生

クモの繁殖行動や産卵の様子、卵のうの保護や子守を紹介した。

第 5 章 岩手の魅力的なクモたち

人家周辺・公園・水辺・里地里山・洞穴など様々な環境に生息するクモについて、県内で撮影した写真や標本を展示して紹介した。

第 6 章 クモを調べる

クモを研究する意義や採集方法などを解説するほか、岩手のクモ学者・片岡佐太郎氏の詳細なスケッチを展示し、業績を紹介した。

終章 クモは好きですか

小学生を対象とする出前授業で自然観察会を行った際に、クモを怖がっていた子どもたちが、最後

には手に載せられるほどクモに親しんでいたエピソードを紹介し、嫌われがちクモも「わかればきっと好きになる」というメッセージを発信した。

その他

デジタルサイネージを用い、クモが網を張る様子や繁殖行動、狩りの様子などを動画で紹介した。



序章・第1章の展示



第2章の展示



クモの拡大模型



第3章の展示



第4章の展示



第5章の展示



第6章の展示



終章の展示

製作物一覧

<展示物>

- ・ジオラマ「水田に生息するナガコガネグモ」
幅 78cm、奥行き 35cm、高さ 100cm
水田の稲に直径 35cm ほどの網がかけられており、その中央にナガコガネグモ（体長 2.5cm、脚を含めると 7cm）がとまっているもの。
- ・拡大模型「ハエトリグモの視野体験模型」
本体全長 178cm、幅 122cm、高さ 70cm。台座全長 183cm、幅 122cm、高さ 81cm
ハエトリグモを約 200 倍に拡大した樹脂製の模型を木製の台座上に設置。内部は空洞で、頭胸部の下面が開いており、内側からクモの目（8 個、半球状の亚克力製）を通して外を見えることで、クモの視野を体験できる。

<印刷物>

- ・いわはく子ども新聞 A4 版 両面カラー 65,000 部 岩手県内の全小学生児童に配布した。
- ・チラシ A4 版 両面カラー 10,000 部 県内および県外の図書館、博物館、公共施設に配布した。
- ・ポスター B2 版 片面カラー 500 部 チラシと同封して配布した。
- ・図録「岩手県立博物館第 69 回企画展 魅力的な 8 本脚の生きもの クモ」
A4 版 64 ページ オールカラー 500 部 県内および県外の図書館、博物館等に配布したほか、当館ミュージアムショップで販売した。（2,200 円）

関連事業

県博日曜講座 会場：博物館講堂

「わかればきっと好きになる・クモ」2018 年 6 月 10 日 講師：渡辺修二

「あなたもハエトリグモを探したくなる！」2018 年 6 月 24 日 講師：須黒達巳氏（慶応義塾幼稚舎教諭）

展示解説会 会場：博物館特別展示室 開催日：2018 年 6 月 17 日、7 月 14 日、8 月 18 日

子ども向け解説会 会場：博物館特別展示室 開催日：2018 年 7 月 28 日、7 月 30 日、8 月 11 日

自然観察会「クモを見つけよう！ in 小鹿公園」会場：盛岡市三ツ割小鹿公園 開催日：2018 年 7 月 1 日

ミニ観察会「クモを見つけよう！ in 岩手県博」会場：博物館敷地内 開催日：2018 年 6 月 17 日、7 月 28 日、7 月 30 日、8 月 11 日、8 月 18 日

来場者アンケート

展覧会会場にアンケート用紙を設置し、展示内容の評価について 4 段階評価「ア．良かった、イ．まあ良かった、ウ．やや良くない、エ．悪い」で質問したほか、展覧会の見学前後でのクモへの好悪の変化について以下の 2 つ（1）「展覧会を見る前、クモは好きでしたか 5 好き・4 やや好き・3 ふつう・2 やや嫌い・1 嫌い（5 段階評価）」（2）「展覧会を見て、クモについて 6 もっと好きになった・5 好き・4 やや好き・3 ふつう・2 やや嫌い・1 嫌い・0 もっと嫌いになった（7 段階評価）」の質問をした。

アンケート集計結果及び考察

アンケートの回収数は 648 名分で、展覧会開催期間中の来館者の 4.8% だった。回答者の年代は 10 代以下が 57.2% と半数以上を占め、次いで 40 代の 10% が高かった。「いわはく子ども新聞」を県内

の全小学生児童へ配布したことにより、小学生とその保護者の来館が多かった（期間中来館者の 37%が小中学生だった）ためだと考えられる。

展示への評価では、良かった・まあよかったの合計は 93%で、当館で目標とする 95%には届かなかった。やや良くない・悪いとするアンケートでは「やっぱりクモは気持ち悪かった」といった感想が書かれており、クモへの嫌悪感が評価を引き下げたと思われる。また、生体展示を希望する感想もあり、生きたクモを見たいという希望に沿えなかった点は反省すべき事項だった。その他、小学校低学年の児童が書いたと思われるアンケートで、感想は「おもしろかった」とあるが、評価ではやや良くない・悪いに○をつけている例もあった。

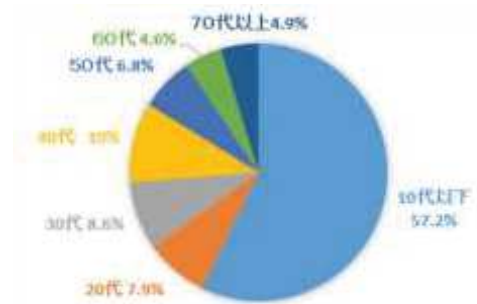
クモの好悪に関する質問では、展示を見る前からクモが好きだという回答（好き・やや好きを選択したもの）は全体の 42.5%で、やや嫌い・嫌いを選択したものは 36.6%だった。展示見学後はそれぞれ 64.5%及び 19.0%と変化し、展覧会を見ることでクモを好きと感じる人が増え、嫌いと感じる人が減少した。感想でも「クモは以前に比べれば嫌悪感が減りました。苦手ではありますが、有毒なクモは少ない事実とつかまなければ平気と知り、関心を抱けました。（中略）嫌いなままですごく済みました。」（20 代）、「初めクモは少し嫌いだったけど、これをきっかけに、クモをさわってみようと思った。」（10 代以下）などが書かれており、本展覧会開催の趣旨の一つ「わかれば好きになる」を来場者に伝えられたと考えられる。

その他の感想として、「5 才息子がこの動画で見たクモの巣をゆする威嚇行動を実際に観察したくてクモの巣を見つけるたびにについて楽しんでます。ゆすらないで逃げていくクモもいました。とてもおもしろいです。」（10 代以下 ※保護者による感想）、「くもは好きではないので、この展示を見て理解してみようと思娘とおとずれました。よくみると「かわいい」ところもあったりして・・・これからいやがらずもっと観察してみようかと思いました。（中略）、考えさせられるような（勝手にきらっちゃいけない！！）企画でした！（後略）」（40 代）、「前回来た時に動画で見た通りの動きを実際家の近くでみたとき、なんだかうれしかったです。」（30 代）など、本展覧会が、身近な生きものであるクモを観察するきっかけとなっていたことを伝えるものが見られた。これらの感想から、来場者の中には、展示を見てそれをもとに野外で実際に観察し、再び展示を見に来たというリピーターがいたことや、生態行動を動画で見せる展示方法が興味を引き、強い印象を残すことがわかった。

その他の感想として、「5 才息子がこの動画で見たクモの巣をゆする威嚇行動を実際に観察したくてクモの巣を見つけるたびにについて楽しんでます。ゆすらないで逃げていくクモもいました。とてもおもしろいです。」（10 代以下 ※保護者による感想）、「くもは好きではないので、この展示を見て理解してみようと思娘とおとずれました。よくみると「かわいい」ところもあったりして・・・これからいやがらずもっと観察してみようかと思いました。（中略）、考えさせられるような（勝手にきらっちゃいけない！！）企画でした！（後略）」（40 代）、「前回来た時に動画で見た通りの動きを実際家の近くでみたとき、なんだかうれしかったです。」（30 代）など、本展覧会が、身近な生きものであるクモを観察するきっかけとなっていたことを伝えるものが見られた。これらの感想から、来場者の中には、展示を見てそれをもとに野外で実際に観察し、再び展示を見に来たというリピーターがいたことや、生態行動を動画で見せる展示方法が興味を引き、強い印象を残すことがわかった。

総括

本展覧会は「わかればきっと好きになる」というテーマのもと、クモの実態を伝えることでクモへのイメージを好転させることを目的の一つとしていたが、クモが嫌いな者はそもそも来場しないのではという心配があった。しかし、来場者にクモが好きか嫌いかをシールの色で表明してもらう参加型展示の様子を見ると、元からクモが好きであることを示す赤・黄のシールだけではなく、展示を見る前はクモが嫌いだったものことを示す青・緑のシールや、展示を見てもクモが嫌いであることを示す黒いシールも数多く張られており、クモが嫌いであっても展示に興味を持って来場していたことが分かった。アンケートや展示解説会でも「クモは嫌いだったが、クモを見る眼が変わった」といった声や、「展示を見ても苦手だけれど、クモの文化史は興味深く見学した」等の意見が寄せられており、

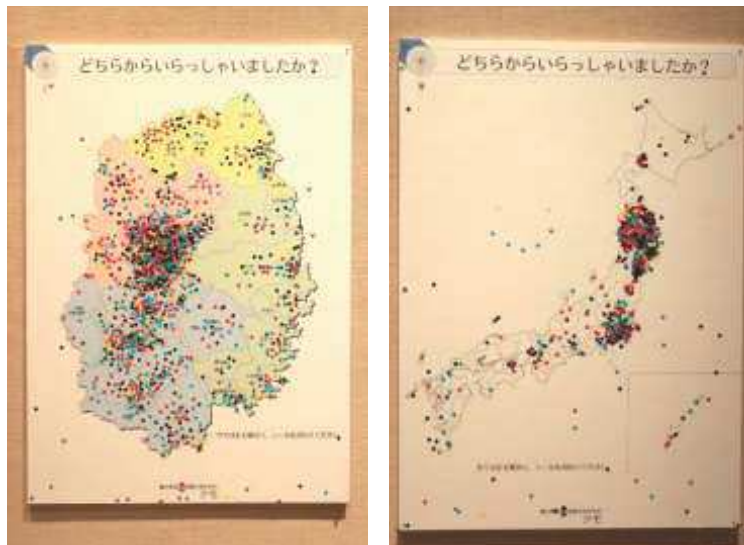


アンケート回答者の年代内訳



展示内容の評価

クモが好きなものだけではなく、クモを嫌う人にも広くその魅力を伝えることができた展覧会となった。



来場者シール（参加型展示） 岩手県版（左）全国版（右）
元からクモが好きな場合は赤か黄、展示を見てクモが好きになった（嫌悪感が薄れた）場合は青か緑、クモが嫌いな場合は黒のシールを貼っていただいた。